

急性骨髄性白血病 骨髄異形成症候群

DNR+AraC療法 患者プロトコール

催吐リスク

中等度

| 投与プロトコール 1コース 14日間 2コース 《開始時基準 PS:0~3(4) 100歳以下》 | | 投与量 | 投与日 | 投与時間 | 備考 |
|---|--------------------------------------|-------------|--------|------------|---------------|
| 制吐剤 | アロキシ点滴静注バッグ0.75mg/50ml | 1袋 | Day1 | 30分 点滴 | |
| ① | キロサイド 100mg/m ² 生理食塩液 | mg 100ml | Day1-7 | 24時間 持続 | totalを48mlに調製 |
| ② | ダウノマイシン 50mg/m ² 生理食塩液 | mg 100ml | day1-5 | 30分 点滴 | |
| <p><使用上の注意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 治療期間は7日間で追加治療は行わない。 ◆ 制吐剤はゾフラン、カイトリル連日投与でもよい。 制吐剤のデカドロンは感染症との兼ね合いで決定。可能ならばイメンドは使用するべき。 <p>【キロサイド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 持続ポンプにて、2ml/hで24時間持続投与。 通常投与後6~12時間に、発熱、筋肉痛、骨痛、ときに斑状丘疹性皮疹、胸痛、結膜炎および倦怠感などが発現することがあるので注意すること。 <p>【ダウノマイシン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 心機能異常またはその既往歴のある患者には禁忌である。 総投与量が25mg/kgを超えると重篤な心筋障害を起こすことがあるので注意すること。 ただし、他のアントラサイクリン系薬剤使用歴がある場合は、これ以下であっても注意が必要である。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 第1コースで寛解に到達しなければ第2コースを行う。原則的にDAY28以降に行う。 ただし、DAY14以降で明らかに芽球増加を認めれば、早期に開始してよい。 <p><調製時の注意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ キロサイドは、溶解時のpHにより安定性が低下すること、ほかの薬剤と混合することにより沈澱が生じることがあるので混注は避けること。太い針を使用するとコアリングを起こしやすい為21Gまたはそれより細い針を使用すること。 | | | | | |